

ツツジゲンバウムシ

ツツジやサツキの葉がスプレー状に白くなる。葉裏には黒い糞が点々と付着し、たいてい微小な昆虫（最大長約4mm）がみられる。幼虫は黒くトゲが生える。成虫は半透明、茶色の模様がある。

高温乾燥条件が続くと多発するようである。多発により木の成長が衰えることがあるといわれている。



1. 被害葉。2000/6/13. 北見市, エゾムラサキツツジ.



2. 幼虫, 体長1~1.5mm, 1の葉の裏側拡大.



3. 成虫, 体長4mm. 2000/7/13. 陸別町, ツツジ.

【学名】 *Stephanitis pyrioides* 【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , グンバウムシ科 (Tingidae)

【分布】 本州, 四国, 九州, 琉球; ロシア極東部, 朝鮮半島, 台湾, 中国南部, オーストラリア, ヨーロッパ.

【生態】

成虫越冬。越冬場所は落葉中など。

春から秋まで葉裏で樹液を吸って加害する。この間、数世代を繰り返す。

【被害と防除】

本州では古くからツツジの害虫としてよく知られている。高温乾燥条件が続くと多発するようで、木の成長が衰える場合があるとされる。

北海道でも庭や公園で普通にみられるが、多発した記録はないようである。

農薬による駆除が必要と判断される場合はツツジゲンバウムシ用の農薬を虫に散布する。使用にあたっては取扱説明書に従い、
通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ツツジゲンバウムシ hoka/tutujigu/
kaisetv.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/16.

1higai.JPG, 1yochu.JPG, seichu.JPG

「写真1～3」 原秀穂，北海道立林業試験場，2000.